

ABC検診（＝胃がんリスク検診）とは、「ピロリ菌感染の有無（血清ピロリ菌IgG抗体）」と「胃粘膜萎縮の程度（血清ペプシノゲン値）」を血液検査で測定し、胃がんになりやすい状態かどうかを判定する検診です。「胃部内視鏡検査（胃カメラ）」「胃部X線検査（バリウム）」と比較し身体への負担が軽いのが特徴です。

当健保では、過去のABC検診の判定に基づき、以下のとおり「胃部内視鏡検査（胃カメラ）」受診のルールを定めております。

【ABC検診結果と胃部内視鏡検査受診のルール】

A群 ⇒3年に1回胃部内視鏡検査受診

B群 ⇒2年に1回胃部内視鏡検査受診

C群 ⇒2年に1回胃部内視鏡検査受診

D群 ⇒1年に1回胃部内視鏡検査受診

E群、又はピロリ菌を除菌して成功した方 ⇒3年に1回胃部内視鏡検査受診

上記のルールに則り、健保サイト（保健事業ポータルサイト）の「胃検査実施状況」欄に、推奨となる胃検査（「ABC検診対象」または「胃内視鏡検査対象」）を表示します。表示された場合は、受診を推奨します。

ABC検診の判定 (A年度)	胃部内視鏡検査実施		
	翌年度 (A+1年度)	翌々年度 (A+2年度)	翌々々年度 (A+3年度)
A群			推奨
B群 *		推奨	
C群 *		推奨	
D群 *	推奨	推奨	推奨
E群			推奨

*B群・C群・D群については、当年度中に二次検査として胃部内視鏡検査を実施します。

<注意> 上記ルールに関わらず、以下のいずれか1つでも該当する場合は胃部内視鏡検査の実施について主治医と相談し、適宜対応してください。

- 胃を治療中の場合
- 胃を切除されたことがある場合
- 胃酸を抑える薬を服薬中の場合
- 慢性腎不全の場合